



平和文化月間イベント



※ 広島市は「世界に輝く平和のまち」の実現に向けて、「平和」への思いを共有する「文化」が市民の日常生活の中に根付くよう、毎年11月を「平和文化月間」と定めました。この爆心地鎮魂薪能は、平和文化月間イベントに位置づけられたイベントの一つです。

ご協賛いただいた皆さま

広島ガス株式会社 広島電鉄株式会社
ネットトヨタ中国株式会社 株式会社サクラオ B&D グループ 饒津神社 広島東照宮
株式会社バルコム 代表取締役 山坂哲郎 オタフクソース株式会社 株式会社立芝
医療法人社団八千代会 理事長 姜仁秀 株式会社にしき堂 福徳技研株式会社 代表取締役 德納剛
株式会社シンコー ウエノヤビル株式会社 代表取締役 上野谷吉禮 株式会社もみじ銀行

上田 宗閑 石田 晃司 横本 良二 久保田 育造 山下 泉 川野 正江 大方 幸三
篠原 敦子 鵜野 政人 井内 康輝 林 正史 喜瀬 清 長沼 純
田中電機工業株式会社 代表取締役会長 田中秀和 田中電機工業株式会社 代表取締役社長 藏田和樹
株式会社 高山清 堂本 高義 橋本 宗利 仙田 信吾 榎本 暁之 長谷川 滋成
岡崎佐和子 有限会社諏訪 諏訪昭登

爆心地鎮魂薪能実行委員会

名誉会長 松井 一實 (広島市長) 名誉委員長 浅野 長孝 (元藩主家当主)

| | | | | | | |
|----|---|-----|---------------------------|-----------------------------|---|---------------------------------------|
| 理事 | 菖蒲田 清孝 (マツダ株式会社 代表取締役会長) 苅田 知英 (中国電力株式会社 会長) 池田 晃治 (株式会社ひろぎんホールディングス 取締役会長) 岡畠 鉄也 (中国新聞社 代表取締役社長) 武田 龍雄 (広島信用金庫 会長) | 委員長 | 山本 一隆 (広島市文化協会会长) 副委員長 | 大島 政允 (喜多流大島家当主、能楽師) 委 員 | 大島 衣恵 (喜多流能楽師) 島 一秀 (爆心直下、島病院前院長) 檜垣 智弘 (広島市平和推進課長) 田邊 雅章 (起案、総合プロデューサー) 事務局長 | 松本 真 (舞台設営、催事運営管理業) 青森 芙美 (事務局長補佐) |
|----|---|-----|---------------------------|-----------------------------|---|---------------------------------------|

ライブ配信視聴方法

YouTube の「爆心地鎮魂薪能」チャンネルにて無料でご視聴いただけます。

スマートフォンから
右の二次元コードを
スマホで読み込み
YouTube にアクセス



パソコンから
YouTube にアクセスして
「爆心地鎮魂薪能」を検索



※本配信の録音・録画、写真撮影（スクリーンショット）は一切禁止とさせていただきます。

《お問合せ》TEL : 090-5708-0873 (担当: 松本) / Eメール : takiginoh.hiroshima@gmail.com
ホームページ : <https://takiginohhiroshima.wixsite.com/bakushinchin>

◆新型コロナウイルス対策として出演者とスタッフは事前に健康状態を確認し、控室においても密を避け定期的な消毒を行います。
◆今後の状況により出演者その他の変更となる場合がございますので予めご了承ください。

エネルギー文化・スポーツ財団
助成事業

公益財団法人ヒロシマ平和創造基金
『ヒロシマピースグラント』の助成事業



原爆ドーム世界遺産登録25周年記念



公演概要

●日時 令和3年 11月15日(月)
18時～20時 予定 ※雨天順延

●会場 原爆ドーム隣接地 特設能舞台

※能舞台周辺に客席はありません。配信の視聴が困難な方はレストハウスに鑑賞会場を準備していますのでご希望の場合はお問合せください。

●演能者 喜多流能楽師 他
●演目 「高砂」「羽衣」

当日は YouTube の「爆心地鎮魂薪能」チャンネルにて無料ライブ配信を行います。
詳細は裏面をご覧ください。

主催／爆心地鎮魂薪能実行委員会 共催／広島市

後援／中国新聞社 NHK 広島放送局 中国放送 広島テレビ 広島ホームテレビ テレビ新広島 広島エフエム放送
協力／爆心地復元プロジェクト 大島能楽堂 ナック映像センター ステージユニオン広島 白神山西向寺
創価学会 静岡市 佐渡市 名張市 アートテレビ 平和写真プロジェクト
広島大島会 加藤徹税理士事務所

ご挨拶

原爆ドームが世界遺産登録25年の節目を迎えた今年、被爆以前まで原爆ドーム周辺に根付き地域住民に親しまれていた「能」を再現し、世界に発信する取組が、市民と経済界、文化団体の連携によって行われることは、大変意義深いと考えております。関係者の皆様に心から敬意を表します。この取組を通して、多くの尊い命を無差別に奪った原爆は、長い年月をかけて培われてきた地域の文化さえも奪ってしまったことを国内外の人々に知ってもらい、平和の尊さを感じていただく機会になるものと期待しています。

終わりに、この度の公演が成功裏に開催され、広島市民の平和への願いが世界に発信されることを心から祈念申し上げお祝いの言葉とさせていただきます。



広島市長 松井一實

かつて広島県産業奨励館（原爆ドーム）の周辺に立ち並ぶ民家では日常の営みと共に広島城の城下町として伝わる能楽ゆかりの庶民の文化が息づいていました。

被爆76年、原爆ドーム世界遺産登録25年の節目を迎えて、広島市との共催によるこの「爆心地鎮魂薪能」の催しはまさにこの原爆ドームの隣接地から広島に関わる多くの皆様の様々な思いを込めて世界に発信するものです。長引くコロナ禍の中でこの閉塞感を打破するため広島市が提唱する“平和文化”的推進を目指して原則無観客で行います。

企画実施にあたり、文化庁をはじめ多くの協賛各社、そしてご協賛いただいた一人一人の市民の皆様に心からお礼申し上げます。



爆心地鎮魂薪能実行委員会
実行委員長 山本一隆

開催趣旨

かつて存在した「猿楽町」「細工町」

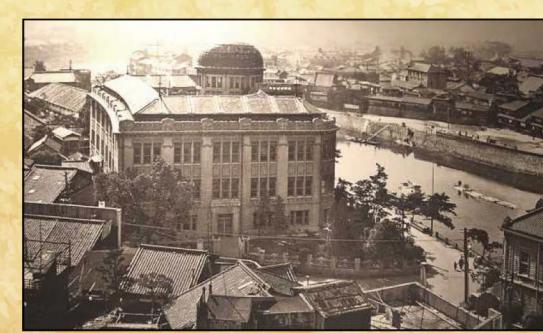
原爆ドームの併む広島市中区大手町一丁目のあたりは、江戸時代から被爆直後まで「猿楽町」「細工町」と呼ばれていました。広島藩政下において能楽師や囃子方、能装束や楽器類の細工師を多く住まわせたことに由来し、日常生活の中に謡曲や能の囃子が聞こえてくる能楽ゆかりの町だったのです。

明治維新を経て大正時代に入るとこの地に広島県物産陳列館、のちの広島県産業奨励館（原爆ドーム）が建設され、文化活動の拠点として町はさらに賑わいを見せていきました。

平和都市ヒロシマの思いを世界の人々へ

この地に存在した人々の暮らしは、原爆と共に跡形も無くなり、今では原爆ドームだけが当時をしのばせています。「猿楽町」「細工町」という名も無くなり、能楽という文化が人々の生活の中に息づいていた事実も忘れられつつあります。

この場所で能楽を上演することにより、確かにあった人々の営みに思いをはせ、平和都市ヒロシマの精神を次世代へと継承します。そして上演の模様をライブ配信するとともに、国際連合をはじめとした国際機関にも告知を行い、そのメッセージを全世界へ広げていきます。



広島県産業奨励館（撮影：廣島寫眞館 松本若次）

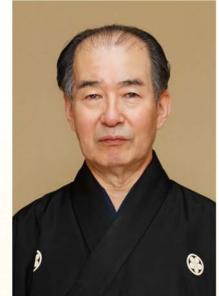
演能について

爆心地鎮魂薪能によせて

この度、広島市をはじめ文化協会会长の山本一隆氏及び多くの方々のご協賛のもと、世界遺産の原爆ドーム前にて多数の犠牲者の皆様の鎮魂の願いを込めて、初の薪能が催される事となり、演者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

ご承知の通り、能は六百年以上前より演じられてきましたが、その根流には常に鎮魂の気持ちが宿っております。今夜は「高砂」「羽衣」の二曲を奉納します。国土安穏、平和祈願を願い、出演者一同心を込めて演じたく存じます。

終わりになりますが、この薪能を立案し実現に向けて奔走されました映像作家の田辺雅章氏に感謝申し上げます。ドーム隣地にかかる生家があり、疎開された氏以外の多くの親族の方々が犠牲になられました。平和と安穏を願う氏の執心が通じたものと思っております。



喜多流大島家 4代目
大島政允

演目

半能「高砂」

シテ（住吉明神） 大島輝久
ワキ（神主） 有松遼一
ツレ（従者） 岡充
ツレ（従者） 原陸

笛 竹市 学
小鼓 横山幸彦
大鼓 亀井広忠
太鼓 前川光範

後見 大村 定
佐々木多門
出雲康雅
中村邦生
長島 茂
狩野了一
金子敬一郎

能「羽衣」舞込

シテ（天女） 大島衣恵
ワキ（漁夫） 有松遼一

笛 竹市 学
小鼓 横山幸彦
大鼓 亀井広忠
太鼓 前川光範

後見 中村邦生
狩野了一
大島政允
大村 定
長島 茂
金子敬一郎
佐々木多門

あらすじと見どころ

半能「高砂」

高砂と住吉の相生の松の伝説をもとにした能。松は常緑で寿命も長いことから、古来普遍の象徴として神木として崇められてきました。今回は能の後半を上演する半能形式で上演します。都へと旅をする阿蘇神社の神主友成一行の前に住吉明神が颯爽と現れ、数々の舞楽を奏して、魔を払い寿福を抱いて世の泰平と人々の幸せを寿ぎます。

（喜多流大島家5代目・大島輝久）

能「羽衣」

富士山のふもと、三保の松原に伝わる羽衣伝説に由來した能。美しい羽衣を見つけた漁師・白龍は国の宝にしようとしているが、羽衣を失った天女の嘆きに心打たれ、衣を返すことと引き換えに天女の舞を所望します。天女は喜んで舞を舞い、憂い多き地上の人々に多くの恵みを与えるながら月に帰ってゆくのでした。

（喜多流能楽師・大島衣恵）

